

## 第5回大宮区区民会議 会議録

- 1 日 時 平成29年10月18日(水) 14時00分～16時15分
- 2 会 場 大宮区役所南館301会議室
- 3 出席者 22名 (傍聴者 1名)

(委員) 15名

花俣淳一会長、池上明彦副会長、横山千恵子副会長  
新井陽子委員、井上恵美子委員、大野敏子委員、廣澤宣明委員、齋藤泰雄委員、  
仙石玲委員、田代秀一委員、登坂篤委員、星野美子委員、松岡忠男委員、  
松本よしの委員、村上隆子委員

(欠席委員) 3名

小倉京子委員、武田千春委員、藤田信一委員、

(オブザーバー) 1名

大野(副区長)

(事務局) 4名

白石(コミュニティ課長)  
池羽、佐伯、加藤(コミュニティ課)

(コンサルタント) 2名

植田、白木((株)社会構想研究所)

## 4 内 容

(1) 開会

(2) 協議事項

①大宮駅グランドセントラルステーション化構想(GCS)

②公共用地(区役所・図書館などの跡地等)の活用

(3) 連絡事項

(4) 閉会

## 5 議事内容

### 埼玉県とさいたま市のまちづくりの現状を知る

これから協議をおこなう上で、現在大宮区でどのようなまちづくりがおこなわれているのか、今後大宮区がどのように変わっていくのか、区民会議委員として知っておく必要があるということから、第5回では「埼玉県とさいたま市のまちづくりの現状」として「①大宮駅グランドセントラルステーション化構想(GCS)」「②公共用地（区役所・図書館などの跡地等）の活用」について、東日本交流拠点整備課と大宮駅東口まちづくり事務所の方から説明を受けました。

#### 【協議内容】

##### ①大宮駅グランドセントラルステーション化構想(GCS)

（さいたま市都市局都心整備部東日本交流拠点整備課）

最初に、東日本の対流拠点としての国の計画による大宮の位置づけや、大宮の「強み」と「弱み」といった GCS の基礎となる部分の説明があった。続いて、整備方針（案）として、①ビジネス拠点を集積 ②対流拠点機能の強化 ③商都大宮の再生 ④上質な住環境の育成 ⑤交通結節機能の充実 ⑥回遊機能の強化 ⑦自動車交通の抑制 ⑧風格ある駅前景観の形成 ⑨強靱性を備えたまちづくり、の9つの分野の方針が説明された。最後に、現在の検討体制として、GCS 推進会議のスケジュールや検討中の取組内容（案）について説明があった。

##### ②公共用地（区役所・図書館などの跡地等）の活用

（さいたま市都市局都心整備部大宮駅東口まちづくり事務所）

まず、大宮駅東口まちづくり事務所の紹介から始まり、PI 方式（住民参加）による計画の策定方法等について説明があった。さいたま市では、大宮駅周辺地域戦略ビジョンに基づき、公共施設再編による「連鎖型まちづくり」を進めている。これは、単に公共用地の活用だけではなく、区役所等の公共施設を再編することにより、生み出された敷地をまちづくりに使っていくというもので、全体のまちづくりを見据えながら大きな視点で考えていくということが説明された。最後に、アーバンデザインセンター大宮から大宮駅東口周辺公共施設再編パブリック・ミーティングのお知らせがあった。

### さいたま市民説明会について

事務局より、「しあわせ倍増プラン2017」と「さいたま市成長加速化戦略」の2つの計画（素案）についての説明会の案内があった。

次回、第6回区民会議は、平成29年11月15日（水）午前9時半から、大宮公園のまち歩きを開催予定。

## 第5回大宮区区民会議 質疑応答

日時：平成29年10月18日（水）14時00分～16時15分

### ①大宮駅グランドセントラルステーション化構想（GCS）

横山副会長： 東武線の移動等については何年度ぐらいを目指しているのか。

東日本交流拠点整備課： この部分の都市計画決定は、駅前広場や東西通路についてまとまった後になり、その時にどこに東武鉄道がくるのかが見えてくる。そのため、その後になるのではないかと。具体的には平成33年度以降になってしまうのではないかと。

横山副会長： 西口と東口の連絡通路について、地下道を造る予定はないのか。

東日本交流拠点整備課： 確かに大宮駅に昔は地下もあったが、埼京線が地下にあること等を勘案して、今は二階レベルでつくっていく方向で検討している。

横山副会長： 京浜東北線の直ぐそばに、東口に出られるような改札があれば便利だと思う。

東日本交流拠点整備課： 昔、京浜東北線から東口に出られる改札があり、東武線との乗り継ぎに使われていた。聞いた話によると、東武線に乗り継ぐ乗降客は1日約15万人おり、溜まり空間がなく安全確保ができなため、閉じてしまったということで、最短経路にできないということだった。

池上副会長： 大宮駅周辺の動きについては、本日の説明を聞いてだいぶわかってきたが、GCSのもう1つのコアとなる「駅」について、どのようにしていくのか説明して欲しい。

東日本交流拠点整備課： 相手がJRや東武鉄道という企業であるため、経営判断が伴っているものしか絵として対外的に出すことができない。そのため、どうしても説明できる取組の内

容に濃淡が出てしまう。東日本交流拠点整備課では、2週間に1回は JR や東武鉄道と協議をおこなっている。できるだけ市民に分かりやすく示せるよう努力している。

**花俣会長：** 大宮駅の外観について、氷川神社や大宮の伝統を踏まえた風格のある外観になると思うが、JR が勝手に決めるのではなく、GCS 推進会議の中で話し合うには、誰が要望してどうやっていけばよいのか。また、基盤整備については、いつ頃確定したものが出てくるのか。

**東日本交流拠点整備課：** 駅の外観については、実施者が JR であるため、市から要望を出した場合、その応分の負担はあるのかという話になってしまう。駅の外観のために税金を支出することに対しては、異議が多くあり難しい。各街区ではデザインコードを検討しており、デザインコードに合わせた統一的なデザインとなれば、自然に大宮駅も素晴らしい形になっていくと思う。駅前広場の配置については、4パターンで検討している。整備構想が案としてまとまっても、このまま4パターンでいくことになると思う。交通広場等が各街区のまちづくりの下に入り込んでいるような形になっており、各まちづくり団体の合意形成の度合いによって、どうなってくるかが決まってくる。

**松岡委員：** このような整備構想を実現するために、民間の資本を今後どのように入れようとしているのか。

**東日本交流拠点整備課：** 民間の力として、駅前広場に隣接する4団体については、GCS 参画してもらっている。民間資本については、この7月28日に閣議決定された、都市再生緊急整備地域という手法等を使いながら進めていきたい。

**齋藤委員：** バスターミナルの地下化については、協議に上がっていないのか。産業道路からバス専用の通路にして、地下でタクシーの乗り入れ等をおこなうといった考えはないのか。

東日本交流拠点整備課： バスやタクシーの地下化については、検討はしている。バスは車高が高いということもあり、スロープが長くなってしまい難しい面もある。タクシーについては、地下を利用して重層的に計画していくことも検討している。

齋藤委員： 地下に商店を造るといったことも検討していないのか。

東日本交流拠点整備課： タクシーについては、地下に行く可能性もあるため、地下にタクシーがくれば、まちづくりとして地下をつなげていくという話も出てくるのではないかと。そこから商店に入れるような計画もできると思う。現在は、そこまで具体的な部分についてはまだ検討されていない。

田代委員： 大栄橋も老朽化していると思うが、大栄橋についてはどのように考えているのか。

東日本交流拠点整備課： 大栄橋は耐震補強ができていないのは事実としてあるが、橋梁点検では年数のわりに健全であるということがわかっており、大規模な改修が必要な状況ではない。GCSでは、東口の再開発等により車が集中し渋滞することが問題として挙がっており、拡充していく必要があるとしている。実際にどのようなことになるのかという事は、まだ検討段階となっている。

田代委員： 桜木駐車場の計画について教えて欲しい。

東日本交流拠点整備課： 桜木駐車場はMICEを誘致することが検討されているが、企業にヒアリングをおこなったところ、駅から遠く難しいという話を聞いている。